

第5学年 社会科学習指導案

日 時 平成28年12月13日(火) 第6校時

対 象 第5学年1組 27名

授業者 杉並区立新泉和泉小学校 三浦 哲

都小社5年部会 研究主題

よりよい社会について考えようとする子供の育成

～国土や産業のすがたを追求し、社会の一員としての考えを深める学習を通して～

- 1 単元名 「情報化した社会とわたしたちの生活」
小単元名 「情報産業とわたしたちの暮らし」 全7時間

2 小単元の目標

我が国の情報産業の様子について、放送局の働きや放送局と国民生活とのかかわりについて調べることを通して、情報を発信する側に求められる役割と責任の大きさや、情報を受け取る側の正しい判断の必要性について理解し、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報産業から発信された情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

3 小単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 観察・資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①災害報道の様子を通して、放送局と私たちの生活とのかかわりについて関心をもち、意欲的に調べている。	①放送局の働きや私たちの生活とのかかわりについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。	①資料を活用したり放送局の仕事に携わる方からの聞き取り調査をしたりして、放送局について必要な情報を集め、読み取っている。	①様々な情報を早く正確に伝えるための放送局の仕組みや放送局の人々の工夫や努力を理解している。
②情報社会の発展に関心をもち、情報産業から発信された情報を有効に活用しようとしている。	②放送局の様子と国民生活とを関連付けて、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを考え適切に表現している。	②調べたことを関連図にまとめている。	②放送局の働きは国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを理解している。

4 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は、小学校学習指導要領第2章第2節社会のうち、第5学年の内容(4)アに基づいて設定した。

- (4) 我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにしている。

ア 放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり

本小単元では情報産業のうち、放送局を事例として取り上げる。放送局の様子として、「つかむ」段階及び「調べる」段階の前半では「災害報道に向けた放送局の取組」を扱う。

まず、「つかむ」段階では、阪神淡路大震災と東日本大震災の発生直後の放送の様子を比較することで学習問題を見出すとともに、「調べる」段階の前半では模擬緊急放送訓練などの様子から、情報を発信する側に求められる役割と責任の大きさについて理解させる。「調べる」段階の後半では「視聴地域と災害報道の関連性」を扱い、災害報道時のL字放送の様子を基に放送局から発信された情報が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることについて捉えさせる。さらに「ふかめる」段階では「国際社会に向けた東日本大震災の報道の在り方」を扱う。放送局の国際放送の様子を基に、情報を受け取る側の正しい判断の必要性や、情報産業から発信された情報の有効な活用が大切であることを児童一人一人が考えられるようにするとともに、インターネットによる放送にも触れることで、次の小単元「情報ネットワーク」とのつながりも意識させる。

これらの社会的事象を関連付けながら学習することによって、「情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切である」という社会的事象の意味を考えられるようにしていく。

(2) 教材について

本小単元で取り上げる主な教材は「災害報道に向けた放送局の取組」「視聴地域と災害報道の関連性」「国際社会に向けた東日本大震災の報道の在り方」の3つである。教材の特徴として以下のことを考えた。

災害報道に向けた放送局の取組の変化

阪神淡路大震災後、東京都渋谷区にあるNHK放送センターから全国中継による地震情報が流れたのは、地震発生から5分後の午前5時51分で、その際は「東海地方に強い揺れ」という表示とアナウンスによるものだった。午前6時台には被災地からの映像はなく、被災地の映像が全国に初めて流れたのは午前7時1分だったが、その映像は神戸放送局内の自動録画によるものだった。結局、神戸市内の屋外の映像が全国中継で放送されたのは、地震発生から1時間18分後の午前7時4分のことだった。

この時の対応を教訓に、NHKでは阪神淡路大震災後、宿直勤務の職員が毎晩模擬緊急放送訓練を行っている。また、専門家と密に連携をとり、地震発生時にすぐに情報を伝えられる体制をとったり、アナウンサーも常に緊急放送用の原稿を用意したりして災害放送に向けた体制が整えられていった。その結果、16年後の東日本大震災では発災直後の放送の様子が大きく異なることとなる。東日本大震災後では、発災直後にはニューススタジオからの放送に切り替わり、3分後の午後2時49分には全国中継で仙台市青葉区、宮城県石巻市の映像を流すことができている。さらに、その1分後の午後2時50分には画面上に津波警報等の情報を表示することもできていた。

視聴地域と災害報道の関連性

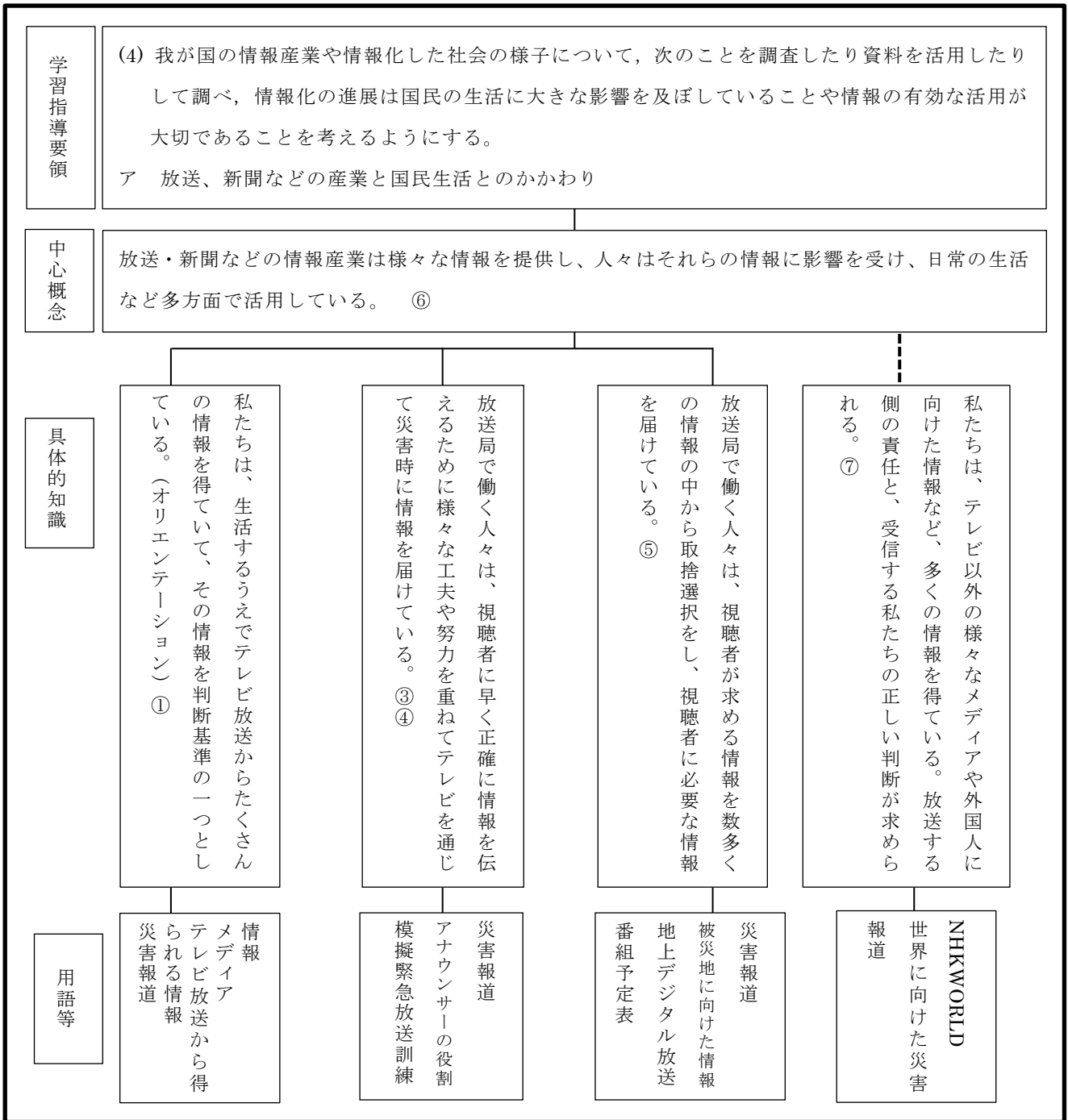
東日本大震災発災の翌日、3月12日午前10時過ぎより、避難所やライフラインなどの詳しい情報を視聴者に届けるために、NHKではL字放送を行っている。テロップに流れる情報は視聴地域によって異なっており、東京都の視聴者には原発関連の情報が流れ、被災地の視聴者には給水所等、避難生活関連の情報が流れている。なお、東京・仙台・福島では、L字テロップが二重・三重となり、各地域の情報を同時に視聴できるという状況も見られた。

国際社会に向けた東日本大震災の報道の在り方

東日本大震災発生直後より、NHKの国際放送(NHK WORLD)では24時間体制で英語による放送を全世界に向けて行っていた。これは、日本語の分からない国内の外国人の方々や、他国の人々に対して震災に関する正しい情報を伝えるための取組である。NHK WORLDの情報は他国のニュース番組でも即日使用され、対外的な情報の窓口として機能していた。また、震災時はインターネットやケーブル局とも連携をとり、様々な手段で情報を発信することで、正しい情報が誰にでも確実に伝わるよう、放送方法の変更を行っている。

(3) 児童の実態について (※削除)

5 知識の構造と育てたい子供の姿



育てたい子どもの姿

- ・情報産業に携わる人たちの思いや願いに共感する子供。
- ・情報の影響力を理解し、情報産業から発信された情報を有効に活用しようとする子供。

6 研究主題との関連

本部会では、全体研究主題である「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を養う社会科教育」特に、今年度から変更された副主題「社会的事象の見方・考え方を使い、社会認識を深める学習を通して」を踏まえた上で、5年部会の副主題「国土や社会を追及し、社会の一員として考えを深める指導の工夫」に重点を置き、児童の社会認識を深め、参画意識を培う

ための手立てを以下のように設定した。

(1) 身に付けさせる知識と育てたい子どもの姿の明確化

5の知識の構造と育てたい子供の姿に示した通り、身に付けさせる知識を明確にし、本小単元で育てたい子どもの姿を、明確にした。

(2) ふかめる段階の設定

本小単元では社会認識をふかめるために、放送局の国際放送の様子を基に、情報を受け取る側の正しい判断の必要性や、情報産業から発信された情報の有効な活用が大切であることを児童一人一人が考えられるようにするとともに、インターネットによる放送にも触れることで、次の小単元「情報ネットワーク」とのつながりも意識させることが重要であると考え、ふかめる段階を設定した。

(3) 社会的事象の見方・考え方に基づいた教材分析

小単元で扱う教材が、社会的事象の見方・考え方のどの視点に位置づくかを分類、整理することで、児童が社会的な見方・考え方をいつ、どのように身に付けていくかが明確になると考えた。

位置や空間的な広がりから見て	時期や時間的な経過から見て
<p>【情報が伝わる範囲に着目して調べ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○放送局などの情報は、キー局などを経由して、国内ばかりでなく海外にも伝えられていることを捉える。 ○離れた場所の人々が放送局などの情報によってつながること捉える。 ○情報が伝わる範囲や種類はメディアによって異なっていることを捉える。 	<p>【情報伝達の技術の進展に着目して調べて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報伝達の技術や仕組みの進展により、私たちは、より早く多くの情報を受け取ることができるようになってきていることを捉える。 <p>【収集から発信までの過程に着目して調べて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○放送局などから発信される情報は、収集、編集、発信の過程を経て、伝える側が加工して発信していることを捉える。
<p>【国民生活と関連付けて考え】</p> <p>◎放送局などは、国民にとって必要な情報を早く正確に伝えており、情報を受け取る国民は様々な影響を受けていることや、情報を有効に活用することが大切であることを理解する。</p>	
<p>【伝える人と活用する人の関係に着目して調べ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○放送局など情報は、受け取る側に必要な情報を選択して伝えられていることを捉える。 ○情報をよりよく活用していくためには、情報の発信者としての責任と受け取る側の正しい判断が重要であることを捉える。 	<p>【様々な人の協力に着目して調べ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○記者や取材班、編集者、アナウンサーなど放送局などが伝える情報には様々な立場の人が関わっており、様々な立場の人の協力により情報が伝えられている。
<p>社会的事象や様々な立場の人々の相互関係の視点から見て</p>	

(○…知識、【】…追究の視点や方法)

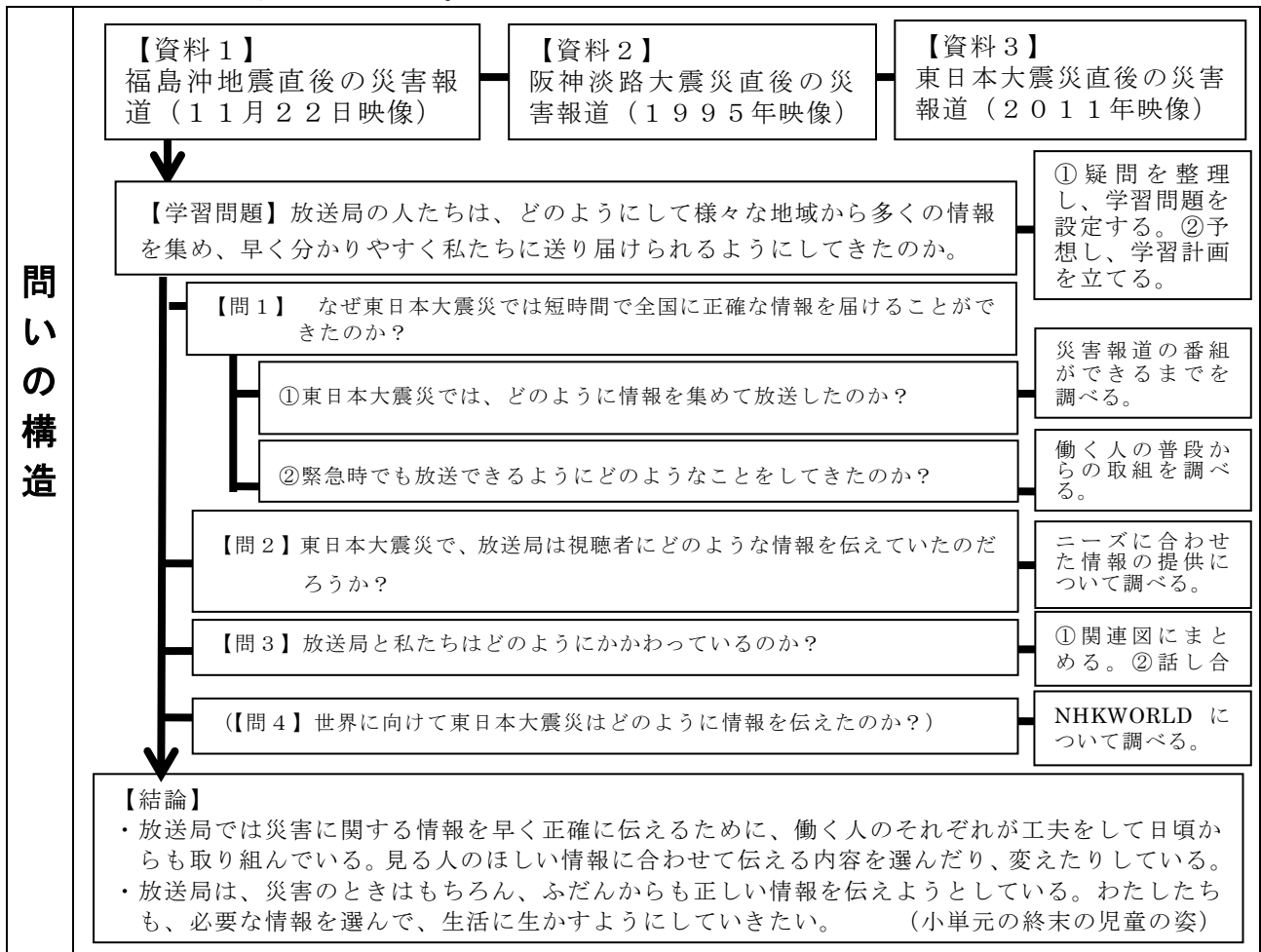
本小単元では、災害報道に向けた放送局の取組や視聴地域と災害報道の関連性、国際社会に向けた東日本大震災の報道の在り方について教材化した。以下のような視点に位置づくと考えた。

視点1	時期や時間的な経過	→	災害報道に向けた放送局の取組の変化
視点2	位置や空間的な広がり	→	視聴地域と災害報道の関連
視点3	伝える人と活用する人の関係	→	放送局の取組と視聴者の支援
視点4	国民生活と関連	→	国際社会に向けた東日本大震災の報道の在り方
視点5	人の営みが見える	→	放送局の取組を通じた被災者や視聴者の生活

(4) 問題解決的な学習の過程に即した追究の問いの構造

小単元の学習問題に対する追究の問いを整理しておくことで、社会的事象の見方・考え方の追及の視点が明確になり、その問いがどのように学習問題に対する自分の考えにつながっ

ていくのかを構造的に示した。

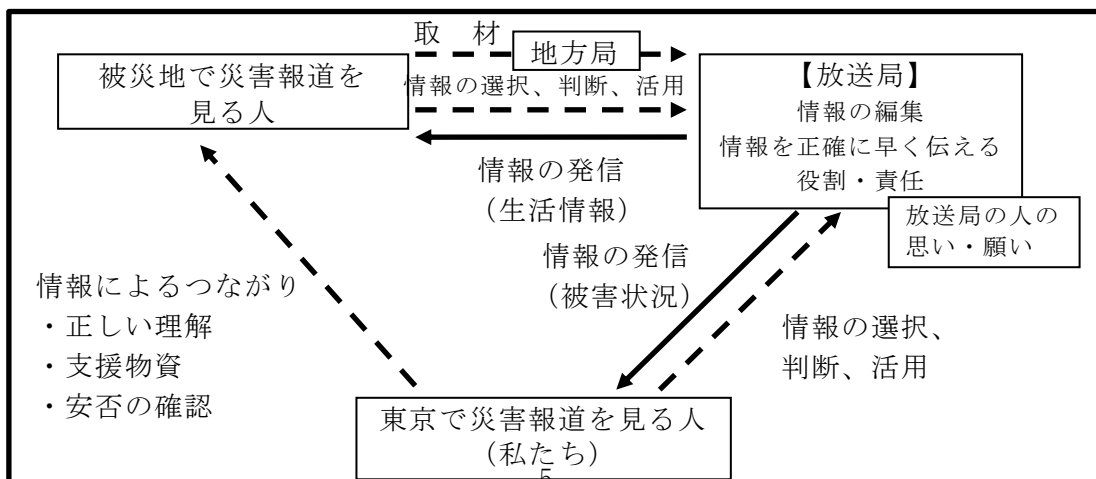


(5) 思考を促すための学習活動 【関連図を用いた学習活動】

「つかむ」段階において、2つの震災を比較する際、児童の発言を視点ごとにまとめることが、疑問を出し合う場面で思考を促すことにつながると考えた。視点が明確になることで、放送局の人たちが何のためにどのような取組をしているのかに対する疑問も生まれ、第2時で学習問題に対する予想を立てる際、児童の思考を促す根拠になると考えた。

次に、「まとめる」段階において、学習問題に対する自分の考えを考え適切に表現していく前の学んだことを整理していく際、関連図を書く活動を取り入れた。関連図は、「放送局の人たち」「被災者」「自分」などの立場を明確にし、それぞれの関係性を具体的に記述していくことで、放送局の様子と国民生活とを関連付けて、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを理解していく際の手立てとなると考えた。

〈関連図の例〉



7 小単元の指導計画と評価計画 (7時間扱い)

過程	ねらい (数字は時数)	○主な学習活動 問 問 ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (□留意点◎資料◇評価)
大単元のオリエンテーション	身のまわりの情報や、それを入手する様々な方法について調べる。	<p>○身のまわりにある情報を入手する方法(メディア)について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞 ・テレビ ・ラジオ ・本 ・インターネット <p>○事前アンケートの結果を基に、テレビで手に入れられる情報について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 ・スポーツの結果 ・地震や台風などの災害の情報 ・事件や事故のニュース <p>○事前アンケートの結果を基に、災害報道についてそれぞれのメディアの特徴と関連付けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビは、すぐに情報が手に入るから地震などの時によく使う。 ・新聞やインターネットは、自分の必要な情報だけを取り出して調べられる。 ・停電の時もラジオを使うことで情報を手に入れることができる。 	<p>□情報、メディアという言葉の意味を確認する。</p> <p>◎事前アンケート</p> <p>□情報産業のうち、放送局から多くの情報を得ていることに児童が気付くようにする。</p> <p>□災害発生から経過した時間や用途によって、選択するメディアが変わることに児童が着目できるようにする。</p> <p>◇情報や情報産業と私たちの生活とのかかわりについて関心をもち、意欲的に調べている。【ア】(ノート)</p>
つかむ①②	<p>① 地震直後の放送局の災害報道の様子について調べ、学習問題を見出す。(本時)</p>	<p>○地震が発生したとき、放送局がどのようにして情報を伝えているか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が発生してすぐに情報を伝えている。 <p>○二つの震災の発生直後のテレビ放送の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災では地震発生から約45分たって、神戸の震度が決まっている。 ・東日本大震災では揺れている最中からすでに放送が始まっている。 <p>○二つの災害報道の様子から疑問を出し合い、学習問題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ東日本大震災ではすぐに様々な地域の情報を伝えられたのだろうか。 	<p>◎11月22日の福島沖地震の災害報道の動画</p> <p>□自分たちが普段目にしてる放送局による災害報道の様子を想起させる。</p> <p>◎日本地図</p> <p>◎阪神淡路大震災と東日本大震災の発生直後の災害報道の動画</p> <p>◇災害報道の様子を通して、放送局と私たちの生活とのかかわりについて関心をもち、意欲的に調べている。</p> <p>【ア①】(学習シート・発言)</p> <p>□時間、空間、関係の視点に沿って児童の意見を分類整理し、学習問題へとつなげる。</p> <p>◇放送局の働きや私たちの生活とのかかわりについて、学習問題を考え表現している。</p> <p>【イ①】(学習シート)</p>
<p>【学習問題】</p> <p>放送局の人たちは、どのようにして様々な地域から多くの情報を集め、早く分かりやすく私たちに送り届けられるようにしてきたのか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・普段何気なく見ていたテレビ放送にこんなに大きな変化があったなんて驚いた。 ・伝え方によって、見ている人が受ける印象も変わってしまうと感じた。 	

	<p>② 学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。</p>	<p>○学習問題に対する予想を話し合う。 ・放送局の人が何か工夫や努力をしているのではないか。 ・放送の仕組みが変わったのではないか。 ○予想を整理し、学習計画を立てる。 問1なぜ東日本大震災では短時間で全国に正確な情報を届けることができたのか？ ①東日本大震災では、どのように情報を集めて放送したのか？ ②緊急時でも放送できるようにどのようなことをしてきたのか？ 問2東日本大震災で、放送局は視聴者にどのような情報を伝えていたのだろうか？ 問3放送局と私たちはどのようにかかわっているのか？ 問4世界に向けて東日本大震災はどのように情報を伝えたのか？</p>	<p>□前時の資料から出た疑問を時間、空間、関係に分類整理しながら問いをつくる。</p> <p>◇放送局の働きや私たちの生活とのかかわりについて、学習問題に対する予想、学習計画を考え表現している。 【イ①】（ノート）</p>
<p>調べる③④⑤</p>	<p>③④放送局では災害報道をどのようにして放送したのかを調べ、放送産業に携わる人々の思いや願いが分かる。</p>	<p>【問1—①】 東日本大震災では、どのように情報を集めて放送したのか？ 【情報伝達の過程】【様々な人の協力】</p> <p>○放送局における東日本大震災の災害報道がどのようにしてつくられたか調べる。 ・多くの人が役割分担しながら仕事をしている。 ・情報の収集、加工、放送と、様々な過程を経て放送されている。</p> <p>○放送局で働く方が、どのような思いで災害報道にかかわり、放送をしていたか調べる。 ・テレビを見ている人に、正しい情報を分かりやすく伝えるということを意識している。</p>	<p>◎東日本大震災の災害報道の動画 ◎災害情報が発信される過程の一覧表</p> <p>◎元NHKアナウンサーAさんの情報を伝える際に意識していたことに関するお話 □技術面の進歩だけではなく、人の様子に着目できるようにする。</p> <p>◇資料を活用したり放送局の仕事に携わる方からの聞き取り調査をしたりして、問いの解決に必要な情報を集め、読み取っている。 【ウ①】（ノート）</p>

	<p>【問1—②】 緊急時でも放送できるようにどのようなことをしてきたのか？ 【情報伝達の変化】【様々な人の協力】</p> <p>○災害報道に向けた放送局の人の取組について調べる。 ・模擬緊急放送訓練を毎晩行っている。 ・情報収集のために関係機関と連携をしている。</p> <p>○放送局で働く方が、どのような思いで災害報道に対して準備をしているのか調べる。 ・災害報道の際の放送原稿は常に持ち歩いていて、放送内容も暗記をしている。</p> <p>【まとめ】 放送局で働く人たちは、私たちに早く正確に情報を伝えるために様々な工夫や努力をしていた。そのおかげで、地震の時に私たちはテレビを通してすぐに情報を手に入れることができる。</p>	<p>◎模擬緊急放送訓練の様子（動画） □放送に携わる人々のよりよい放送をつくるための努力について捉えさせる。</p> <p>◎元 NHK アナウンサー A さんの災害報道に対する備えに関するお話 □放送に携わる人々のよりよい放送をつくるための思いについて捉えさせる。</p> <p>◇様々な情報を早く正確に伝えるための放送局の仕組みや放送局の人の工夫や努力を理解している。 【エ①】（ノート）</p>
<p>⑤ 東日本大震災で被災地と被災地以外に放送された情報の違いを調べ、放送局は視聴者が求めている情報に合わせて放送内容を変えていることが分かる。</p>	<p>【問2】 東日本大震災で、放送局は視聴者にどのような情報を伝えていたのだろうか？ 【伝える側と受け取る側の相互関係】</p> <p>○東日本大震災翌日のL字放送の画面の様子について調べる。 ・東京の人に向けた放送には原発関係のことが表示されている。 ・被災地の人に向けた放送には給水所など、生活関連の情報が表示されている。</p> <p>○東日本大震災の翌週月曜日のテレビ番組の放送予定表について調べる。 ・予定されていた番組が変更されて、震災関連の番組を放送している。</p> <p>【まとめ】 放送局では、見ている人の求めている情報に合わせて放送の内容を変えていた。私たちは、自分に必要な情報を放送されている内容から選ばないといけない。</p>	<p>◎東京で放送された東日本大震災のL字放送の画面（静止画） □東京での放送と被災地での放送が組み合わさっている画面であることを伝える。</p> <p>◎テレビ番組の放送予定表（新聞） □視聴者のニーズに合わせて番組編成も変更されることを捉えさせる。</p> <p>◇放送局の働きは国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを理解している。 【エ②】（ノート）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめる</p>	<p>⑥ 調べたことを関連図にまとめ、学習問題に対して考えをもつ。</p>	<p>○調べたことを関連図にまとめる。 (6ページ参照)</p> <p>○学習問題に対して考えたことを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【問3】 放送局と私たちはどのようにかかわっているのだろうか。 【国民生活との関連付け】</p> </div> <p>・放送局では災害に関する情報を早く正確に伝えるために様々な工夫や努力を行っている。また、見る人に合わせて伝える情報の内容を変えたりもしている。私たちは必要な情報を選んで、生活に生かすことを大切にしないといけない。</p>	<p>□情報が伝わる過程や情報を取り出す過程を矢印で表すことで、情報の送り手と受け手の関係を視覚的に捉えさせる。</p> <p>◇調べたことを関連図にまとめている。【ウ②】(関連図)</p> <p>□関連図を基に、放送局と視聴者である自分たちとの関係性を捉えさせる。</p> <p>◇放送局の様子と国民生活とを関連付けて、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや放送局から発信された情報の有効な活用が大切であることを考え適切に表現している。 【イ②】(ノート)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふかめる</p>	<p>⑦ 世界に向けた災害報道の様子について調べることを通して、情報産業と人々のかわりについて考える。</p>	<p>○NHKWORLDについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1995年から放送が始まった。 ・24時間放送されている。 ・当日のニュースも英語で放送されている <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【問4】 世界に向けて東日本大震災はどのように報道されていたのか？ 【情報伝達の範囲】【情報伝達の変化】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報を伝えることで、風評被害を防ぐように努めていた。 ・日本の情報の窓口という意識で外国の方が求めている情報を発信し続けていた。 ・インターネットも利用することで、より多くの人々が情報を手に入れられるようにした。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【問5】 私たちは情報をどのように使っていたらよいのだろうか？ 【国民生活との関連付け】</p> </div> <p>○情報産業から発信された情報とどう関わっていくべきか自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送局をはじめとした情報産業では、災害のときはもちろん、ふだんからも正しい情報を伝えようとしている。私たちも、必要な情報を選んで、生活に生かすようにしていきたい。 	<p>◎NHKWORLDの紹介(映像)</p> <p>◎元 NHK アナウンサーAさんの国際放送における東日本大震災の報道に関するお話</p> <p>□国内に留まらず、情報をもたらすより大きな影響力を意識していたことを捉えさせる。</p> <p>□社会認識を深めるとともに、情報を伝達するネットワークにも着目させる。</p> <p>◇情報社会の発展に関心を持ち、情報産業から発信された情報を有効に活用しようとしている。 【ア②】(ノート)</p>

8 本時について（全7時間中の第1時間目）

(1) ねらい

地震直後の放送局の災害報道の様子について調べ、学習問題を見出す。

(2) 展開

過程	児童の活動 (○主な学習活動・児童の反応、内容)	教師の指導・支援 (□留意点◎教材◇評価)
つかむ 10分	<p>○地震が発生したとき、放送局がどのようにして情報を伝えているか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震が発生してすぐに情報を伝えている。 様々な地域の様子が画面に映し出されている。 アナウンサーの人の口調がいつもの様子とは違う。 画面にどんどん情報が出てきている。 	<p>□ 掲示物を基にオリエンテーションの内容を想起させる。</p> <p>◎ 11月22日の福島沖地震の災害報道の様子（動画）</p> <p>□ 自分たちが普段目にしていく災害報道の様子を想起させる。</p>
<p>大きな地震が起きた後のテレビはどんな放送をしてきたのだろう。</p>		
調べる 33分	<p>○二つの震災の発生直後のテレビ放送の様子について調べる。</p> <p>【阪神淡路大震災の画面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生から約45分たって、神戸の震度が決まっている。 被災地の映像が流れない。 画面に出ている情報が福島の地震よりも少ない。 <p>【東日本大震災の画面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 揺れている最中からすでに放送が始まっている。 様々な地域の映像が映し出されている。 震度が決まった後も画面に次々と情報が出てきている。 アナウンサーが避難についての指示を出している。 <p>○二つの災害報道の様子から疑問を出し合い、学習問題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ東日本大震災ではすぐに情報を伝えられたのだろう。 なぜ東日本大震災では地震発生直後から様々な地域の映像を伝えることができたのだろう。 阪神淡路大震災から東日本大震災までの16年間で、放送局で働く人はどんなことに取り組んできたのだろう。 	<p>□ それぞれの震災の概要を伝える。</p> <p>◎ 日本地図</p> <p>◎ 阪神淡路大震災と東日本大震災の発生直後の災害報道の様子（動画）</p> <p>□ 時間、空間、関係の視点に沿って児童の意見を分類整理する。</p> <p>◇ 災害報道の様子を通して、放送局と私たちの生活とのかかわりについて関心を持ち、意欲的に調べている。【ア①】 (学習シート・発言)</p> <p>□ 時間、空間、関係の視点に沿って児童の意見を分類整理し、学習問題へとつなげる。</p> <p>◇ 放送局と私たちとのかかわりについて、学習問題を考え表現している。【イ①】(学習シート)</p>
<p>学習問題 放送局の人たちは、どのようにして様々な地域から多くの情報を集め、早く分かりやすく私たちに届けられるようにしてきたのか。</p>		
まとめる 2分	<p>○本時のふり返しを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段何気なく見ていたテレビ放送にこんなに大きな変化があったなんて驚いた。 伝え方によって、見ている人が受ける印象も変わってしまうと感じた。 	

(3) 板書計画

12/13 (火)		疑問に思ったこと		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 課題 大きな地震が起きた後のテレビはどんな放送をしてきたのだろう。 </div>		<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>
1995年1月17日5時46分 阪神淡路大震災	2011年3月11日2時46分 東日本大震災	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;">画面の静止画</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;">画面の静止画</div>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; height: 15px;"></div>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 震度を伝えるのに45分かかっている。 ・ 被災地の映像が流れない。 ・ 画面に出ている情報が少ない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 揺れている最中から放送している。 ・ 1・2分で震度の情報が出ている。 ・ 様々な地域の映像が次々に出ている。 ・ 震度の情報以外にも画面にたくさんの情報が出ている。 ・ アナウンサーの人が避難について支持を出している。 		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習問題 放送局の人たちは、どのようにして様々な地域から多くの情報を集め、早く分かりやすく私たちに届けられるようにしてきたのか。 </div>		